
桜舞うあの丘で

はく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜舞うあの丘で

【Nコード】

N4267S

【作者名】

はく

【あらすじ】

ショートショートです。毎日がハッピーエンド。読む人の心を癒します。

それは約束。

君は覚えているのだろうか。

「日本に帰ったら、ここでまた会おう」

「うん、忘れないよ」

そう君は答えていたね。

あれから5年の月日が経った。

今更だが、もう遅過ぎるのかもしれない。

電話を掛ければ良かった。

手紙を書けば良かった。

頭の中を過ぎるのは、後悔の念だけ。

眩しかった笑顔。

君の笑顔はいつも輝いて見えたよ。

全部、俺が悪い。

君を置いて、俺はアメリカへ渡った。

今では遠い過去のようだよ。

「待ってる」

あの時の君の笑顔が忘れられない。

アメリカへ渡り、3年。

仕事が落ち着き、やっと余裕が出来た時だ。

電話をした君はそこにいなかった。

聞いたのは、引越して、今はどこにいるのかもわからないことだけ。

そして、俺は再び日本の土を踏んだ。

やっとだが、帰って来れたんだよ、俺は。

だが、君のいない日本に何を俺は求めているのだろう。

もう、いるはずもないのに……。

ここは約束の丘。

出会いでもあり、別れの場所だ。

長い長い上り坂。

その頂点にあるのは、1本の大きな桜の木。

俺達はここで出会った。

そして、ここが別れの丘でもある。

満開の桜だったな。

それは今も変わらず、その姿が俺の目に飛び込んで来る。

爽やかな春の桜の香。

全てが今となっては懐かしい……。

気持ちにケジメをつけなくてはならない。

だから、俺は今日、この桜の木に別れの報告をする。

そんな気持ちで来たんだよ、俺は。

だが、俺は自分の目を疑った。

ここで君と再会出来るとは思わなかったからだ。

信じられない……。

満開の桜に満面の笑みの君がいた。

「コウ君」

「・・・ミユキ・・・」

「約束だったよね」

「・・・そうだったな」

奇跡とはこういうことを言うのか。

世の中、捨てたものじゃないな。

「コウ君？」

「いや、何だ・・・、その・・・」

「お帰りなさい」

輝くような、ミユキの笑顔。

変わらないな。

「ああ、ただいま。それとゴメ・・・」

「ゴメン」と言おうとしたのだが、ミユキがそれを遮る。

「信じて待ってた」

そう言った、ミユキが俺の胸に飛び込んで来た。

「ただいま」

「うん、お帰りなさい」

「どっしってここにっ？」

「何となくね、そんな気がしたんだ」

「そうか、もう離さないからさ」

「うん、わかってる」

止まっていた時間が動き出した。

満開の桜が俺達を祝福してくれているようだ。

「これから、ずっと一緒だな」

「うん、ずっと一緒だよ」

時間は二人の新たな人生を刻み始めた。

桜舞うあの丘で

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4267s/>

桜舞うあの丘で

2011年10月6日23時20分発行